

夏休み企画

竹工芸 ～竹にみる昆虫たち～

【会期】

7月5日(火)～8月28日(日)

【開館時間】

午前9時～午後5時

【休館日】

月曜日、祝日の場合はその翌日

【入館料】 無料



火鉢は、灰を入れて、炭火をおこし、手をあぶったり湯を沸かしたりする暖房器具です。同時に座敷の調度、装飾としての役割をもつものもあり、土製のほかに木製・金属製・陶磁器製などがあります。木製には角型の角火鉢や丸木を削り貫いた丸火鉢、金属製には鉄火鉢があり、ほかに銅製、青銅製などもあります。冬季には欠かせないものでした。

商家や上層階級では、角型木製の火鉢や丸木を削り貫いた丸火鉢が用が一段と多くなりました。火鉢は、江戸時代に陶芸技術が向上してからのことで、明治時代には鉄火鉢が出回り、熾火(赤く熱した炭火)や消炭(薪や炭の火を途中で消してできた軟らかい炭)を入れて暖まりました。明治の中期以降、炭焼きの技術が普及してから、炭が容易に入手できるようになると、木炭を使えるようになり、火鉢の使用が一段と多くなりました。火



鉢に五徳を立てて、薬缶(ヤカ)を掛け湯茶を沸かしたり、金網や鉄灸(細い鉄条を格子のようにつくったもの)を置いて餅やかき餅、目刺しなどを焼いたりしました。昭和二十七年ごろから、石油・ガス・電気などを燃料とするストーブが普及しはじめましたが、火鉢の方が燃料費として安価な為、家庭には必ず火鉢があり、暖房器具として永く使われました。資料館では、民俗資料として陶磁器製の火鉢・木製の長火鉢を展示しています。

歴史民俗資料館だより

火鉢

た火鉢(火桶)などが使われていたが、庶民の間では、格式ばった客があったときに手焙(てい)として土製や金属製、陶磁器製などが使われました。

庶民の間に火鉢が普及したのは、江戸時代に陶芸技術が向上してからのことで、明治時代には鉄火鉢が出回り、熾火(赤く熱した炭火)や消炭(薪や炭の火を途中で消してできた軟らかい炭)を入れて暖まりました。

明治の中期以降、炭焼きの技術が普及してから、炭が容易に入手できるようになると、木炭を使えるようになり、火鉢の使用が一段と多くなりました。火

ごみ減量化コーナー



◇エコクッキングを始めましょう

エコクッキングとは、普段、ゴミとして捨てている材料の部分など、ほとんど使い切り、ゴミを出さない工夫をした調理方法です。

ちょっとしたアイデアで、材料を無駄なく使えるメニューを考えれば、ごみ減量につながります。

たとえば……根菜類や大根の皮などは捨てる部分には栄養もたっぷりです。きんぴらにしてまるごと食べましょう。



1人一日100グラムごみ減量運動実施中

たった100グラムの減量でも、全市民で取り組めば、家庭から出るごみを、年間810トン・約2割減らすことができます。